

## 脳梁体部の小梗塞により他人の手兆候を呈した1例

み三 たき しん ご き たに みつ ひろ  
三 瀧 真 悟 木 谷 光 博

キーワード：脳梗塞 限局性 脳梁 他人の手兆候 半球間離断症候

### 要 旨

症例は87歳右利き女性である。2007年1月30日夜より突然左手が勝手に動くようになった。右手で布団をかけると、左手が勝手にはぐとといった両手間の拮抗症状を呈した。入院後撮影したMRIでは、脳梁体部に限局した小梗塞巣を認め、これが原因で発症した他人の手兆候と考えられた。高次機能検査では触覚性の脳梁離断症状が明らかとなった。脳梁体部梗塞による他人の手兆候はよく知られているが、本症例のように、脳梁体部の小病巣で他人の手兆候を発症した報告は我々が検索した限りでは過去に報告はなかった。脳梁体部前半部の小領域が左右半球間の、運動あるいは触覚情報の伝達に関係している可能性が示唆された。

### はじめに

他人の手兆候とは片側、時に両側上肢が患者の意図と無関係にまるで外部から操られるように複雑な動きを呈するものであり、その記載はGoldsteinの症例報告にはじまる。病巣から2型すなわち前頭葉タイプと脳梁タイプに分かれると言われており<sup>1)</sup> 脳梁に限局した病巣により他人の手兆候を呈した報告も散見される。しかし我々が検索したかぎりでは本症例のように、体部に限局した小病巣で発症した報告はなく、貴重な症例で

あると考えられる。

### 症 例

患者：87歳 女性 右利き  
主訴：左手が勝手に動く  
既往歴：数年前より高血圧  
家族歴：特記事項なし  
現病歴：2007年1月30日夜より突然左手が勝手に動くようになった。右手で布団をかけると左手がそれをはいだり、勝手に自分の胸をたたいたりした。その後も同様の症状が続いたため2月1日近医を受診し、同日当院に紹介受診、入院した。  
入院時現症：血圧 170/80 mmHg, 脈拍 80/分 (整), 体温 36.0℃, 意識清明, 脳神経に異常な